

女性の政治参画

女性は
政治に向いて
ない？

これまで日本では女性が内閣総理大臣になったことはありません。これまでの101代全員が男性です。閣僚の集合写真を見ても女性が圧倒的に少ないのがわかるはずです。

日本の人口の約半分は女性ですが、**衆議院議員の女性比率は9.7%**。世界190か国中165位、**OECD諸国最下位**です。^{※1} 国民の代表である議員に女性が少ないと、女性の声が反映されにくくなります。

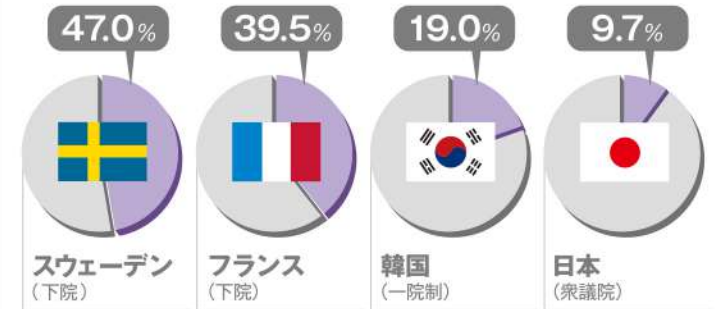
衆議院議員の女性比率は約10人に1人



「ガラスの天井」という言葉があります。男性と同じように能力や実績があっても、女性が一定以上の地位につくのを阻む障壁のことです。制度を決める意思決定の場に女性がいない、「リーダーは男性」という思い込みなどがガラスの天井を作っています。

女性の政治参画が進んでいる国では、多くの場合クォータ制を取り入れています。**クォータ制は、格差をなくすために性別などを基準にして、議席や候補者の一定数を割り当てる制度**です。2020年にはクォータ制を敷いている国と地域は約60%になりました。^{※2}

日本では2018年に候補者均等法（政治分野における男女共同参画の推進に関する法律）が施行されましたが、数値目標は努力義務となっていてペナルティはありません。

各国の
女性議員の
割合

※1

地方議会での女性の割合は、都道府県議会議員で11.5%、市区町村議会で14.8%です。女性議員が一人もいない議会もあります。^{※3}

ガラスの天井だけでなく、子育てと政治活動の両立、立候補者や議員へのセクシュアル・ハラスメントなど課題は多くあります。女性議員が増えることで、男性中心の制度や慣習が変わり、ジェンダー平等な社会へ向かうことが期待されます。

出典

※1 IPU (列国議会同盟) 2021年11月時点

※2 「諸外国における政治分野の男女共同参画のための取組」(内閣府男女共同参画局)

※3 「地方公共団体の議会の議員及び長の所属党派別人員調」(総務省) 令和2年12月31日現在